

成年向

完全 敗北 陵辱劇



ある日命じられたファントム退治
いつもと同じだと思っていた。
いつもの通り私がオフェンスで
後ろをかわいい後輩たちが守る。

ちょっと大変で難しいけど、やりがい
のあるそんな仕事。

その程度にしかその時の私は考えて
なかったんだ。

異変はファントムにトドメを刺す直前に起こった
いつもの通り私の必殺の一撃が決まると思った

しかし、ファントムに深々と刺さった私の右腕は
ファントムから抜けなかった。
それどころか、どんどんとファントムの中に引きずり
こまれていったのだ。

錯乱した私は助けを叫んだが、時すでに遅く。
ファントムの中へと引きずり込まれていったのだ。

ちよっとなんの
なよここは

なんで私
裸になってんのよ

騒がしいメス豚だ

これから我が直々に調教して
メス豚の振る舞いを仕込んで
やるうというんだ感謝
するがいい

何が感謝よ
いいから離せ

まずはその口の
利き方から
たださねばならんか

いやッ

メスを調教するには
下準備が大切だからな



なにわけわかんない
こと言ってるのよ

下準備の意味が
わからぬか
下等なメスには

いいから
やめッ

いやああ

ひぎこ



汚い

こんなもん
かけるな

汚いだと？

これから貴様の餌に
なる聖水だぞ

ありがたく頂け



ひッ

やめろって言うてんのが
わからないのかよ
この変態ファントム

本当に品の
無いメス豚だ

この我を愚弄
するとはな

しっかりと
体に馴染ま
せなくてはな

品がないのは
そっちでしょう

人の大事なとこ触り
まくりやがって



大事な所?

メス豚にそんな
箇所はなからう

だからそういうとこを
勝手に弄るんじゃねええ

ひぎい

ひッ

がッ
がッ

はひいいい

なんだメス豚が
生意気に絶頂ったか？

イッてなんかない

おやおやおや
粗野なだけで
なく嘘まで
吐くか

うるさい
誰がそんなこと

そらっ
本当のことを
吐いてみる

メス豚は
絶頂きました
と言ってみろ

ひきい

あはあ



今だって我の愛撫で
何度も絶頂って
おるのだろう？

そんなわけが

乳首も引きちぎって
欲しいのかな？

わかった
わかったよ

絶頂った
絶頂ったよ
だからもうやめろお

ふんようやく
認めたか

だが嘘を吐いた事実は
かわらぬなしっかりと
罰を受けて貰うとしよう

な…なにを



ひぎやああああ

おっと我の一部を貴様の腐れマンコに突っ込むなぞ罰ではなく褒美になっちゃったか

こんなの褒美なわけないでしょう

汚いモン抜きなさいよおおお



我は学べと
言ったはずだぞ

口の利き方一つまともに
できんバカの言葉に
耳を貸す気はない

ふざけんな

そらしっかりと頼んでみる
そうすればもう少しましな
調教を施してやるぞ

うるさい誰が
あんなの言う
ことなんて

痛みの伴うモノより
快楽に塗り潰される
方がよかろう



強情な
メス豚だな

我に逆らっても
苦しみが長くなる
だけだぞ

ちよっちよっとなにする気
なのよ

かし



そこは違う

いやあああああ

いぎい

なんとも狭い
アナルだな
これから
しっかり拡張して
やらねばなああ

かし

ぐぐぐ



あひっ



どうだマンコとアナル
同時に犯されるのは
初めての貴様には辛かろう

びしょ



死ぬこんなの
死んじゃう





はぎっ

そら中にも
たっぷりと
聖水を恵んで
やろうぞ



それと感じているだろうが
私の聖水には体の感度を
数百倍にする効用が
あるそれを中に注げば…

ど…どうなるって
のよおお

セックスのことしか
考えられん
変態メス豚奴隷に
なれるだろうな

かっ
かっ



いやああ

そんなのいやよ

抜いて

抜きなさいよ

よいではないか
四六時中ちんぽを
求め我に服従して
いればよい

それがこれからの
貴様の人生なの
だからな



そらまだまだ
聖水は出るぞ

貴様の脳まで
届くようしっかり
注いでやろう



やめろもう
これ以上射すん
じやない

これ以上したら

殺す
ぶっ殺してやる

びしょ
びしょ



こんなことして
どうなるか
わかってんの

私は

汚い言葉しか
吐けんそんな口は
いらんな

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ



下の口と上の口三つから
聖水を注いでやるぞ

体に回るのも
さぞ早かろう

快樂中毒で頭が
おかしくなるのも
さほど時間は
かからんだろうな



いやだああ

快樂中毒に
なるなんて

チンポのことしか
考えられなくなる
なんてそんなの最低



胃も腸もみんな
こいつの精液で
いっぱいだよおお

精液で溺れ
死んじゃう

こんなの死ぬ





そろそろ
反省できた
かな？

そら正しい言葉で
我に哀願してみろ
さすれば温情を
与えてやってもよいぞ



やめへええ

そら何か
喋らぬか

汚い言葉ばかり
吐いていた口で
喋ってみよ



そらどうした

腹が破れるまで
強情をはるか



うぐっ

こんな奴に

こんな奴なんか
屈服したくない

もうこの腹は
私の聖水で
いっぱいだ

だが止めんぞメス豚で
あることを我が
主であることを
認めぬ限りな



ひやめええれ



このままじゃ
死ぬしんじやう



もうだ…めだ

ごめんなさい
私が強情でした

あなたが私の
ご主人様です

メス豚マイの
ご主人様です

だからもうこれ以上
精液お腹に注がないで
下さい

お願いしましゅう

ふむまだまだ物足りぬが
今はその言葉に免じて
許しててやろう



ひぎぎやああああああ

ヒギギ
ヒギギ
ヒギギ

ヒギギ
ヒギギ
ヒギギ

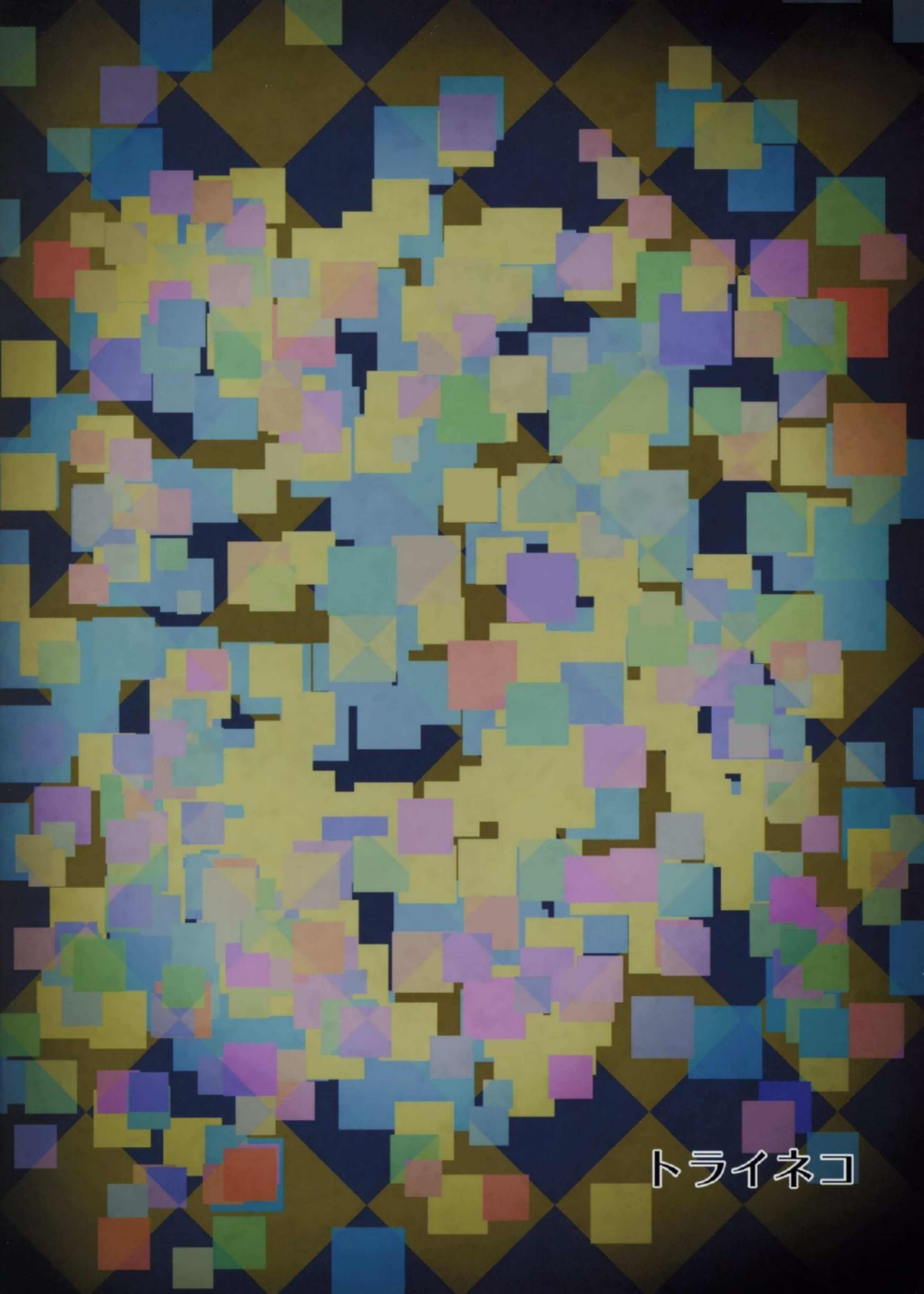
グッ
グッ
グッ
グッ

こうして私はご主人様の雌豚奴隷となり
一生この身を捧げることとなったのだった



発行日 2015 01 24
発行 トライネコ
大陽出版様





トライネコ